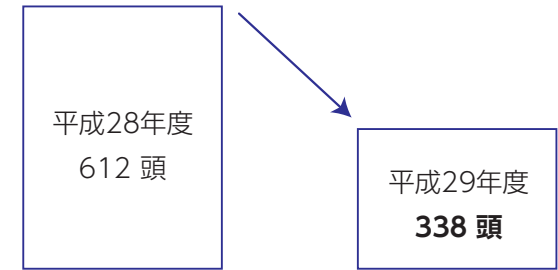


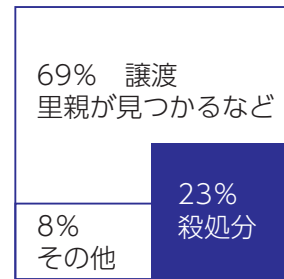
茨城県の犬の殺処分数

譲渡頭数の拡大に向けた取組により、
1年間で殺処分数が半減しました。



茨城県の犬・猫殺処分の割合 (平成29年度)

県動物指導センター収容総数3083匹のうち



- ① 動物棟に収容されていた犬たち。それぞれの性別や性格に合わせて、柵に分けられている。
- ② 収容されている中でも、人に飼われていたであろう犬は、しっぽを振って人懐っこく近寄ってくる。
- ③ 譲渡先が決まっている犬。新しい家族が待っている。
- ④ 茨城県は平成28年度末から、子猫の譲渡促進を進めている。
- ⑤ 県動物指導センターの職員の腕をなめる愛らしい姿も。

■センターで見た現状
茨城県動物指導センターには、迷い犬や飼い主の不明な猫などが県内からやってきます。収容された犬のうち、首輪を付けた犬は、人が柵に近づくとしっぽを振って嬉しそうに近寄ってきました。また、何かを訴えるように吠えたりしている犬やじっとこちらを見つめている犬もいました。

ここでは、犬の年間収容頭数の約半数が、飼い主に引き取られているのに対し、県内では10%未満の犬しか引き取られていません。多くの飼い犬が鑑札や迷子札を付けず、飼い主の情報を分かるようにしていないことが大きな原因のようです。「そのうち帰ってくるだろう…」そのような安易な考えで、飼い犬を放っておいてしまうことも、命を失うことへとつながってしまうことを忘れないください。

■昨年度県内の犬の殺処分数は半減に
県内の犬の殺処分数は、長年にわたり全国上位に位置するほど多く、平成28年度は全国ワースト3位でした。そこで、県は「茨城県犬猫殺処分ゼロを目指す条例」を制定。犬猫殺処分ゼロに向けた啓発活動や、譲渡犬猫の飼育管理費補助事業などの対策強化に取り組み、収容頭数の減少やボランティアによる引き取り頭数を増加させました。結果、平成29年度の犬の殺処分数は、前年度と比べほぼ半減となり、多くの命が救われました。

特集

かけがえのない命

9月20日から26日は、動物愛護週間です。
動物にも私たち人間と同じ命があります。
だから、もう一度考えてほしいのです。
正しい飼育で救える命があることを――



大好きな家族のところに
帰りたいよ――

※掲載している犬・猫についてのお問い合わせは、ご連絡ください。

■犬や猫と暮らすこと
私たちの身近な動物として暮らす犬や猫などのペットたち。ときに人の心を癒やし、大切なパートナーともなる大事な存在です。町内でも犬は2,592匹飼育されており(平成30年4月現在)、その人気がうかがえます。
家族のように大切にされているペットがいる一方で、多くの犬や猫たちが茨城県動物指導センター(笠間市)へ収容されているのも現状です。平成29年度、町内での犬・猫の引き取りと捕獲の合計件数は県内でも比較的多く、92件にものぼります。県動物指導センターに収容される犬の多くは、迷子による保護や、飼い主の飼育放棄などによるものです。なかには、飼い主がいるのに迎えに来てもらえなかったり、捨てられてしまったたりした犬や猫たちも。飼い主は、その命を一生大事にするという覚悟を持って、飼い始めたのでしょうか。
今回の特集を機に、動物と共に生きることはどういうことなのか、少しでも多くの人に考えて欲しいと思います。